

はじめに	(社)全難聴理事長 高岡 正	----- 2
第Ⅰ章 震災の記録		
1. 阪神・淡路大震災における被災状況		----- 3
2. (社)全難聴阪神・淡路大震災支援体制について		
(1) (社)全難聴震災対策本部の所掌業務一覧表と機構図		----- 6
(2) 全難聴本部における地震対策		----- 8
(3) 全難聴現地対策本部の活動状況		----- 12
(4) 阪神大震災に係わる諸機関への要望		----- 19
3. 支援活動の概要		
(1) 現地対策本部からの報告		----- 24
(2) 支援行動の状況について		----- 25
(2)－1 支援体制と緊急情報		----- 29
(2)－2 第1次行動計画		----- 34
(2)－3 第2次行動計画		----- 39
(2)－4 第3次行動計画		----- 43
4. 義援金及び救援物資		
(1) 義援金受入れ一覧表		----- 49
(2) 義援金及び救援物資支給状況		----- 55
(3) 参考資料		
・震災募金についてのお願い		----- 59
・義援金寄贈挨拶状		----- 60
第Ⅱ章 被災体験集		----- 63
第Ⅲ章 緊急事態発生時における対応		
1. 阪神・淡路大震災における難聴者の対応行動に関する調査		----- 73
2. 阪神・淡路大震災を巡って(座談会)		----- 83
3. 防災マニュアル		----- 98
4. 震災時の教訓と今後の対策について		----- 100
付録・全難聴加盟協会名簿		----- 106
編集を終えて		----- 110



はじめに

(社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

理事長 高岡 正

かけがいのない尊い 6,279 人の命を一瞬にして奪い、被害総額約 10 兆円とも言われる未曾有のマグニチュード 7.2 震度 7 の大震災より、早くも 1 年の歳月を刻み、それからすでに 3 ヶ月が過ぎました。

復興への力強い槌音を聞きながらも心身に大きな傷跡を残し、今なお不自由な生活を続けておられる被災されました皆様方のことを思いますと本当に胸が痛みます。改めて心よりお見舞い申し上げます。

なお、この震災に際し、いち早く救援活動にかけつけ、ご尽力頂きました地元協会の皆様方を始め被災地近隣の加盟協会、要約筆記サークルのご支援下さいました方々、そして心温たまる多額の義援金や救援物資を寄せられました全国の皆様方に対し心より感謝し厚くお礼申し上げます。

私達は、かつて経験したことのない大震災に遭遇し急遽、震災地兵庫県宝塚に現地対策本部を設け被災会員の安否確認、被害状況の把握、情報の収集提供等の支援活動に懸命の努力を傾注しました。

そして情報取得や、コミュニケーションにハンディのある私達は支援活動では大層難儀しましたが、一方、なによりも大切な温かい人の心に接し、多くの教訓を学び得ました。

この貴重な教訓を後世に伝え今後の事態に少しでも役立てばと念じ、実施しました支援活動の記録、被災会員の体験等を、まとめた「阪神・淡路大震災の教訓」《難聴者の記録とマニュアル》と題する震災報告書を作成しました。

ささやかな小冊子ではございますが、行政等関係者の皆様を始め難聴者、中途失聴者の方々にご笑覧頂き、今後の備えに少しでもご参考になればと願っています。

なお、この報告書の編纂にあたり、「震災時における難聴者等の対応行動」のアンケート調査を実施下さり、しかも貴重な玉稿を賜りました文教大学田中淳先生を始め、多忙にも拘らず編集に努めて頂きました各位に対し心より感謝申し上げます。

後になりましたが今回の震災で御支援ご指導賜りました各省庁、NHK、関係団体、関係企業等の各位にお礼申し上げ本誌発刊のご挨拶とさせていただきます。本当に有難うございました。

以上

1. 阪神 - 淡路大震災における被災状況

難聴者、要約筆記者の地区別被災状況一覧表（平成7年5月1日現在・単位 人）

団 体 名	会員数	死亡	負傷	全壊	半壊	一部損壊	一般被災	被害なし
明石難聴者協会	1 9				1	6		1 2
芦屋難聴者協会	1 9	2		5	2	3		9
尼崎難聴者協会	5					3	2	
淡路難聴者協会	3 9			1	3	1 3		2 2
伊丹難聴者協会	1 0					1 0		
川西難聴者協会	7					3		4
宝塚難聴者協会	4 2		1	2	4	1 9	5	1 2
西宮難聴者協会	6 2	2	2	1 7	1 4	1 3	1 7	
三木難聴者協会	2 0							2 0
神戸市難聴者協会	1 0 1			5	1 0	5 0	3 6	
三田難聴者協会	1 0					1		9
大阪府難聴者協会	1 0					5	5	
明石要約筆記サークル	1 5		1		5	5		5
芦屋要約筆記サークル	1 3			2	8	3		
淡路要約筆記サークル	2 1			2		8		1 1
伊丹要約筆記サークル	8			1	2	4		1
川西要約筆記サークル	2 3				1	7		1 5
宝塚要約筆記サークル	3 1		3	2	5	7	1 1	6
西宮要約筆記サークル	1 5			1	2	7	5	
三木要約筆記サークル	1 0					4	2	4
神戸要約筆記サークル	3 1			3	2		2 6	
三田要約筆記サークル	1 5					4		1 1
合 計	5 2 6	4	7	4 1	5 9	1 7 5	1 0 9	1 4 1

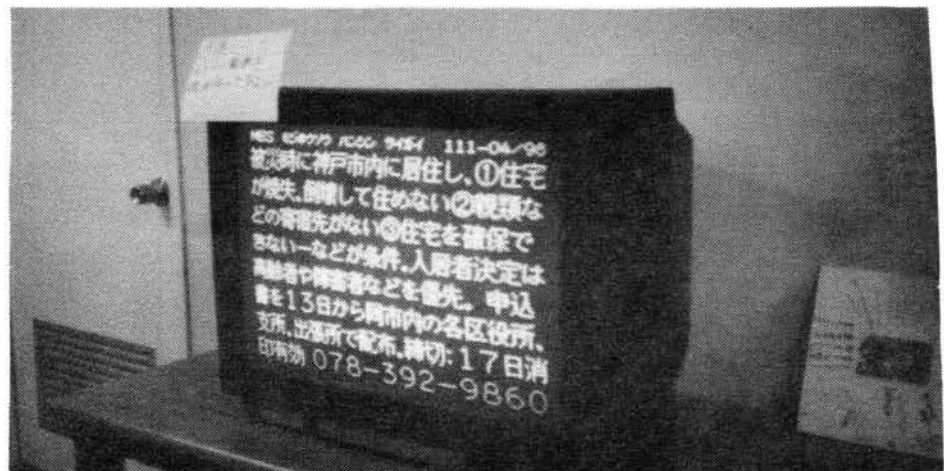
兵庫県難聴者福祉協会、神戸市難聴者協会、大阪府難聴者協会、兵庫県要約筆記サークル連絡協議会加盟団体の被災を集計したものである。

被災状況写真

①

文字放送推進協議会より
贈られた
文字放送テレビ

(現地対策本部)



②

要約筆記者と
被災地巡回打合せ

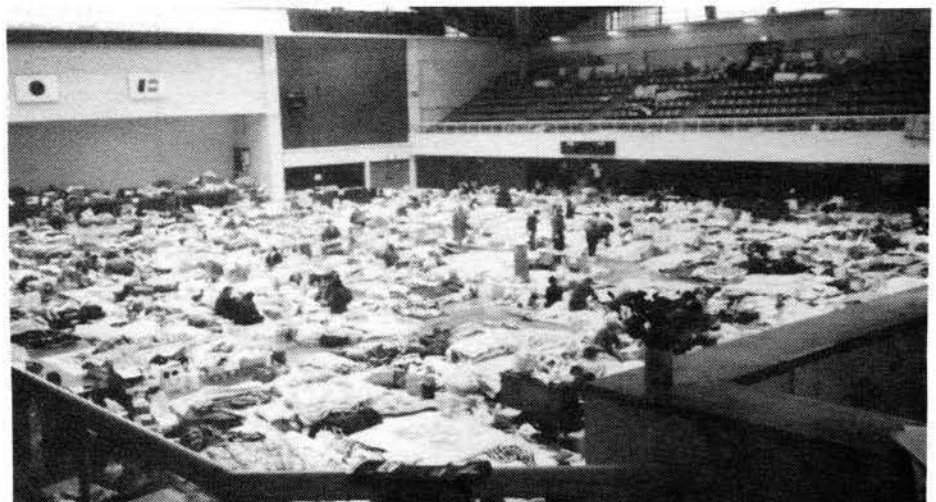
(西宮市総合福祉センター)



③

避難所

(西宮市立中央体育館)



④

倒壊家屋の除却

(被災難聴者を訪ねる
要約筆者)



⑤

震災の犠牲者の自宅玄関 と入り口の献花

(現地対策本部長と
要約筆者)



⑥

避難所で避難中の 会員を訪問

(西宮市・池田会長と
大上本部長)



2. (社)全難聴阪神・淡路大震災支援体制について

(1) (社)全難聴震災対策本部の所掌業務一覧表と機構図

全難聴阪神大震災対策本部の所掌業務一覧表

1995. 1. 25

I. 全国救済対策本部 (設置場所…全難聴本部事務所)

★主たる任務

現地対策本部との連絡情報を管理し全国各都道府県(政令都市)加盟協会等の救援活動の統括を行ない関係機関等への情報提供及び収集と救済資金の確保と管理を行なう。

★業務内容

- ①現地対策本部よりの情報及び要望を把握し支援活動総括指示
- ②災害義援金運動の推進及び受付
- ③全国各加盟協会の支援活動の喚起と情報の提供収集
- ④全要研との連帯を計り要約筆記者の支援活動の調整
- ⑤関係諸官公庁及び報道機関への要請及び連絡
- ⑥関係団体との連携
- ⑦その他任務遂行に必要な業務

★構成員

全難聴理事長他本部役員及び近隣協会会長
全要研本部委員

II. 兵庫県現地対策本部 (設置場所…宝塚市総合福祉センター)

★主たる任務

救援対策本部へ現地情報を提供すると共に救援内容を協議検討すると共に神戸市難聴者協会及び各支部との連携を密にし適確な支援活動を行なう。

★業務内容

- ①被災者の状況把握
- ②被災者への情報提供
- ③被災者への相談業務
- ④対策本部への情報提供及び支援活動計画の協議
- ⑤要約筆記通訳者の現地派遣
- ⑥各支部現地対策員への情報通達と連絡調整
- ⑦被災地の自治体対策本部との情報交換と支援策の要望
- ⑧義援金の現地受付と管理及び被災者への交付事務
- ⑨県内関係諸官公庁及び関係団体との連絡
- ⑩会員以外の個人よりの支援問合せ事務処理
その他必要な業務

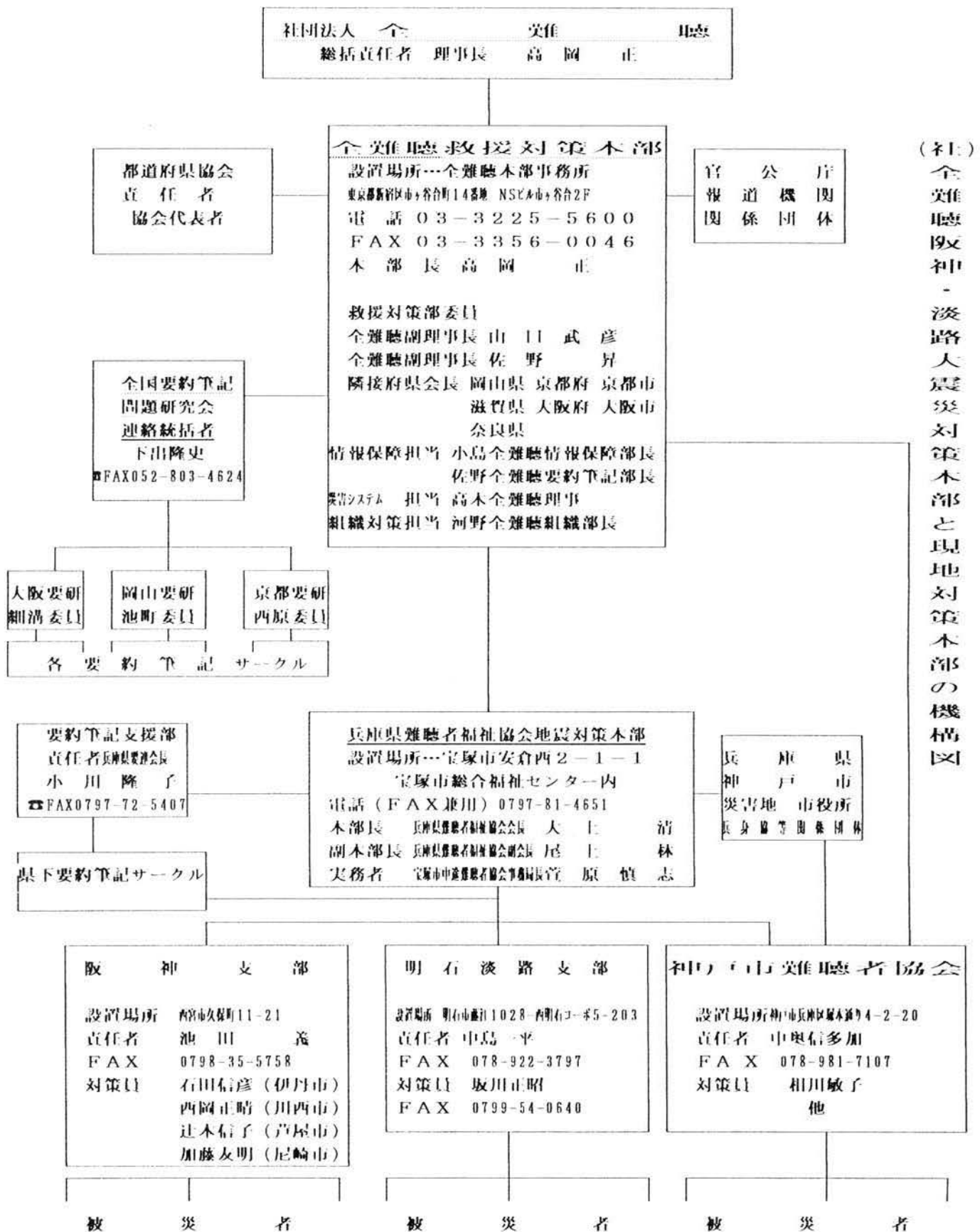
★構成員

兵庫県難聴者福祉協会会長他役員
神戸市難聴者協会会長他役員
兵庫県要約筆記サークル連絡協議会会長他役員

阪神大震災（兵庫県南部地震）

中途失聴者難聴者救援対策組織図

1995. 2. 1現在



(2) 全難聴本部における地震対策

全難聴阪神大震災対策本部

この度の阪神大震災で犠牲になられた方に心から哀悼の意を表します。また、家屋の損傷や負傷を負われた方々にお見舞い申し上げます。

さて、兵庫県南部地震が発生してから10日間が過ぎようとしています。今回の地震の被災状況と阪神大震災に対する全難聴の取り組みとその意義について、報告したいと思います。

あの困難な中で、兵庫県難聴者福祉協会では16の協会会長の無事が確認されましたが、残念ながら361名の会員数の内、芦屋市2名、西宮市2名の方が亡くなられたことが確認されています。その他負傷の方2名、家屋倒壊11、家屋損壊多数、未確認7名、未連絡協会2（1月25日現在）という状況です。神戸市難聴者協会でも101名の会員中、80名強（1月25日現在）の無事が確認されたとのことです。大上兵庫県難聴者福祉協会会長は、被災直後から握りめしを持って宝塚の会員宅を回り、4日間かかって無事を確認されたとのことです。

何人かの方からの報告によりますと、地震と同時に補聴器を手探りで探したが見当たらず、後で自宅に戻って、見つけるまで何の行動もできなかったとか、テレビもファックスも付かない中で何よりも「状況の把握がしなかった」自宅にいても避難所でも「様々なお知らせがアナウンスされるが何も分からない」という聴覚障害がゆえの困難が浮かび上がっています。

こうした中で、全難聴と現地難聴者協会は直ちに行動を開始しています。地震の発生と同時に、全難聴はすぐさま組織的に対応を開始しました。

17日

地震発生後、直ちに理事長名で総理府障害者施策推進協議会、厚生省、郵政省、自治省、NHKに対して、難聴・ろう者のためにNHKのニュースなどに文字による情報提供を行うこと、自治体からの避難・救助の情報は聴覚障害者にわかる方法をとることの2点で情報の保障を第一に要望しました。厚生省から、直ちに国土庁、NHK、民放等に要望を伝えた旨の連絡がありました。

兵庫県難聴者福祉協会、神戸市難聴者協会と連絡を取り始めるも返事なし。

名古屋の高木氏が緊急時災害情報システム委員会として、台風情報と同じようにパソコン通信ニフティ・サーブの障害者フォーラムのテレビで報道された地震情報のファックスがあり、各協会に配信。

18日

横浜福祉大会について、実行委員会と協議していましたが、西宮難聴者協会の渡辺ゆかりさんより無事と連絡が入りました。小島情報保障部長より他団体との共同行動の提案あり。

19日

早朝4時、高木委員より、寝ないでまとめて頂いたパソコン通信のインターネットからの情報の大量ファックスあり。午後3時15分に兵庫県難聴者福祉協会尾上事務局長より第一報が入り、大上会長と漸く連絡が取れたこと、新聞で犠牲者2名の確認をしたこと、依然として会員との連絡が取れない状況など報告がありました。

ワールドバイオニア社より、見舞いのファックス。

ベターコミュニケーション研究会の「いくおーる」誌の緊急特集号の座談会出席を依頼される。

障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会が厚生大臣に障害者救援の要請書を提出した旨、連絡が入る。テレビ等報道機関に聴覚障害者に手話か字幕を入れるよう申し入れるよう要望。

20日

全国の難聴者協会に行動提起をする事を常務理事に確認。直ちに「兵庫県南部地震に対する活動について」を発信。状況報告と現地との連絡に全力をあげることに、NHK、各民放局に対して要望を行うこと、義援金の取り組みを提起しました。

厚生省から、全国の都道府県に対し、支援体制をとること、兵庫県、神戸市に対して安否の確認、情報の提供、食品の給与、補装具・日常生活用具の再給付等について、通達を出した旨連絡がありました。（一斉配信済み）

小島情報保障部長が現地の会員の安否の確認を始めて、以後連日報告される。

厚生省植村専門官より、全難聴の取り組み状況に付いて問い合わせあり。理事長と事務局で、事態にあわせて土、日も出勤体制をとりました。

21日

早朝3時のファックスで「全難聴の地震対策（1）」を発信し、理事長を中心に地震対策メンバーを決めました。メンバーは災害のあった兵庫県難聴者福祉協会大上会長（常務理事）、同尾上事務局長、神戸市難聴者協会中奥会長、隣接県の京都府山口会長（副理事長）、大阪府上野会長（常務理事）、岡山県浅野会長（理事）、京都市小畑会長（理事）、奈良県上田会長（理事）、滋賀県庵原会長（近畿ブロック長）、情報保障関係として佐野要約筆記部長（副理事長）、名古屋高木会長（緊急災害情報システム委員会）、小島情報保障部長。

NHKやNTTへの要望書の起草、全要研との協議、厚生省、テレビメーカーへの協力依頼などを分担。

朝9時過ぎ、地震発生後翌日からバイクで往復10時間かけて現地入りしていた上田会長より報告が届く。あまりの惨状に涙無くして正視できない。避難所にいる難聴者は食事の給付、給水もアナウンスなので受け損ねることも。夕刻18時過ぎ、大上会長から、早朝より握り飯を持って宝塚の会員宅を一軒一軒回って安否を確認している旨報告が入る。家が倒壊している会員が4人。要約筆記者の家も被災。

神戸市中奥会長より、会員の消息調査依頼あり、終日兵庫県本部、警察に問い合わ

せを続ける。

深夜NHKへの要望書出来上がる、直ちにファックスで送信。

長野難聴者協会窪田氏よりの要望書も送信。

22日

NHK編成局文字放送木村紀征部長に要望書を手渡す。編成局と報道局に伝える旨、回答頂く。テレモ日本取締役榎原編成局長にも文字情報の重要性を説明。同日深夜より、文字放送画面をNHK一般放送（地上波）で放映する。

埼玉川原会長よりNHKへの要望書送った報告あり。郵政省大臣官房にもNHKへの要望書を善処方要請。「震災募金についてのお願い」を各地の難聴者協会に配信。

全難聴顧問みみより会鈴木克美会長よりお見舞いのファックスをいただく。人谷相談役より、激励と各協会に地元に対して災害対策を求めるよう提案あり。

23日

全要研下出事務局長より、全要研の体制について連絡あり。中心は下出事務局長（052-803-4624 F ネット）、大阪細溝さん、岡山池町さん、京都西原さんがそれぞれの要約筆記サークルのとりまとめ。全難聴相談役各位にも義援金の依頼を郵送する。

日本福祉新聞より、全難聴の被災状況と取り組み取材。

【厚生省に追加の要請】

1. 補装具・日常生活用具の再交付に新規の文字放送デコーダーも加える。
2. 補聴器の給付も福祉形補聴器以外の給付を受けられるよう弾力的な運用をとる。
3. 避難所にいる聴覚障害者のために他市県の要約筆記者の受け入れを図る。
4. テレビ、文字放送の情報の再配布の著作権の許諾の免除を依頼。
5. 聴覚障害者情報提供施設の支援の取り組みの強化。

現地対策本部の設置場所について、地震対策メンバーに検討依頼。岡山県浅野会長より、激励とNHKに要望書を出した旨報告あり。大阪上野会長より、NHK大阪放送局報道部生活情報班から情報提供依頼のファックスがあったと報告。

24日

全日本ろうあ連盟、全難聴の連盟で文字放送普及推進協議会に、被災地の聴覚障害者団体に文字放送テレビと画面プリンターを寄贈して頂くよう要望書を提出した。これは文字放送の災害関連の画面のコピーを会員にファックスで届けることを考えたものです。

山口副理事長、神戸市に入る。中奥会長宅を訪問。神戸ろうあハウス視察。他府県からの応援は交通事情が悪く無理と判断。神戸ハウスよりも身障センターなどが適当ではないか。

全国補聴器販売店協会、リオン（株）に補聴器サポートセンター（仮称）を打診。リオンより、対応可能な補聴器店リストを入手。

（社福）聴力障害者情報文化センター宮澤事務局長より、被災見舞いと協力の申し出を頂く。

25日

兵庫県難聴者福祉協会で現地対策本部設置。

(部長・大上清 宝塚市総合福祉センター団体事務所内 TEL・FAX 0797-81-4651)。

全難聴阪神大震災対策本部設置。

(本部長・高岡正 事務局内 FAX 03-3354-0046)

朝日新聞の取材を受ける。阪神大震災と聴覚障害者について話す(高岡)。

郵政省大臣官房より、「平成7年兵庫県南部地震に対する郵政省の対策について」
(全10頁)報告あり。

テレモ日本編成局長より、阪神大震災関連文字放送特別番組について、連絡あり。

- ・905#NHK災害お知らせ

- ・119#テレモ災害情報

- ・122-126#災害死亡者名簿

小島情報保障部長より、制度に関する問題について情報提供。

26日

富士通ゼネラルより、文字放送プリンター届く。

27日

障害者協議会より、兵庫県南部地震情報No.1が届く。

29日

上野会長、宇田副会長が宝塚現地本部へ入る。

(3) 全 難 聴 現 地 対 策 本 部 の 活 動 状 況

(3) - 1 難 聴 現 地 対 策 本 部 設 置 に 至 る ま で の 経 緯 と 主 な 活 動 状 況

月 日	曜 日	事 項
1 . 17	火	地震発生に伴い県難聴大上会長と県難聴組織担当萱原理事が宝塚市総合福祉センターに急遽集まり、市内の会員安否の確認と被害調査の対応について協議する。
1 . 18~21	水	各地域(西宮、宝塚、芦屋、明石、淡路等)会長が会員宅を巡回し、安否確認と被災状況の確認と見舞いに巡回する。
1 . 20	金	全難聴高岡理事長より兵庫県南部地震対策について県難聴会長に対応指示し同時に兵庫県福祉部長宛に聴覚障害者の安否確認と情報保障について支援要請を行う。
1 . 21	土	全難聴地震対策委員を高岡理事長が指名した。 NHKに対し聴覚障害者の情報保障を全難聴理事長名で要請する。
1 . 22	日	全国要約筆記問題研究会(全要研)が中失難聴者への情報支援体制を整えると共に義援金の呼び掛けと受入れ口座の設定がなされた。 全難聴が義援金の呼び掛けを全国の各加盟協会に行い、受入れ口座を設ける。
1 . 23	月	理事長より神戸市内で全難聴現地対策本部設置の検討要請がある。
1 . 24	火	全難聴山口副理事長が神戸市の被災地を訪ねて神戸市内での支援対策本部設置を神戸市難聴者協会中奥会長と協議した。 兵庫県難聴者福祉協会では、大上会長宅で三役と激震地の西宮池田会長及び県要連小川会長が集まり協議した結果、対策本部を宝塚市総合福祉センターに設置することにして関係当局と交渉することとした。
1 . 25	水	宝塚市総合福祉センターを対策本部として利用承諾を宝塚市社会福祉協議会に要請し、許可されたので直ちに本部を設置し全難聴本部及びNHK等関係機関に周知し支援協力を求める。
1 . 26~28	木	各被災地域協会の会員安否確認と被害状況の把握に努める。
1 . 29	金	小島情報部長より「被災者が活用できる制度」「精神面への対応」等のFAX情報が着信し被災地協会に周知する。 県難聴加盟各協会に対して被災状況調査依頼について、その結果を返信するよう本部長名で督促した。大阪難協上野会長他来訪。

月 日	曜 日	事 項
1 . 30	月	京都市要約筆記ボランティアより西宮市域の被災状況視察の感想を本部宛 FAX にて寄せられた。 大上本部長、松谷対策委員が芦屋市役所を訪問し支援行動計画に対する協力要請を行なう。
1 . 31	火	全難聴山口副理事長来訪、全難聴現地対策本部支援行動の取り組みについて協議し緊急対策会議の開催を決定した。 全難聴吉田耳マーク部長より救援物資として【耳マーク】が届いた。
2 . 1	水	全難聴被災難聴者第1次支援行動対策会議を開催した。 (出席者) 〈難聴者協会〉山口副理事長、大上現地対策本部長他 〈要約筆記者〉全要研西原委員、小川県要連会長他
2 . 2	木	兵庫県聴覚障害者協会須磨理事長来訪、支援対策につき情報を交換し、今後の協力方法について話合った。 広島市「おりづる」小西氏から神戸市内の状況について連絡が入った。
2 . 3~ 9	金	第1次支援行動を開始する。 神戸市灘区、兵庫区、須磨区、芦屋市、西宮市、宝塚市、伊丹市、明石市、淡路地域（京都、大阪、奈良、兵庫、神戸の各協会の難聴者12名及び要約筆記者21名が支援行動参加）
2 . 4	土	大阪市難聴者協会新谷会長、安達事務局長来訪。
2 . 7	火	山口副理事長来訪し第2次支援行動対策会議についての打合する。 文字放送普及推進協議会に要望された文字放送内蔵テレビ、プリンター東芝製品寄贈される。
2 . 9	木	第2次支援対策会議を開催する。 (出席者) 〈難聴者〉 大上現地本部長、滋賀、京都、兵庫の各会長他 〈要約筆記者〉全要研西原委員、県要連小川会長及び、奈良、神戸の要約筆記サークル代表
2 . 12~16	日	第2次支援活動開始する。 神戸市中央区、灘区、東灘区、兵庫区、長田区、須磨区、垂水区、芦屋市、宝塚市、川西市、伊丹市、尼崎市、明石市、淡路地域（奈良、大阪市、大阪府、兵庫県、京都府、京都市、滋賀県各協会難聴者64名、要約筆記者129名が支援行動参加）

月 日	曜 日	事 項
2 . 13	月	県要連が支援行動についての対策会議を開催した。 岡島(芦屋)三浦(西宮)中村(川西)田中(三田)小川(宝塚)
2 . 19	日	全難聴高岡理事長、山口副理事長、宝塚市内現地視察。 午後現地対策会議開催する。 (出席者) 〈本部〉高岡、山口、〈県難聴〉大上、松谷、池田、萱原 〈神戸難聴〉中奥、坂上、大橋、鳴滝、中村、加藤 〈全要研〉下出、西原〈県要連〉小川 ^降 田中 ^加 会議後、高岡理事長、下出全要研事務局長等は西宮市内の被災地視察を行なった。
2 . 21	火	補聴器、FAX等の救援物資につき兵庫県障害者支援センターに 給付要請を行なった。 兵庫県立リハビリセンター、兵庫医科大学等の巡回チームによる 医療ボランティア活動についての情報を入手し即時、当センター 大窪STに第3次支援行動への協力要請を依頼し了承が得られた。 同時に県難聴者協会加盟地域協会会長に支援行動の指示をする。
2 . 22	水	第3次支援活動計画の骨子をまとめ関係者と協議し決定する。 兵庫県立リハビリセンター大窪STに第3次支援活動計画案を説明し協力依頼する。そして了承を得る。
2 . 26	日	第3次支援対策会議を開催し、高齢や障害、病弱等の理由で避難 所にいる難聴被災者の援護を行うことを中心として医療巡回チー ムと協力して取り組む方針を決めた。 (出席者) 〈巡回チーム〉岸田氏(大阪府立身体障害者福祉センター 付属病院耳鼻咽喉科検査室) 〈難聴者〉大上本部長、浜野(岡山県)板垣(滋賀県)中河(滋賀県) 中奥(神戸市)上田(奈良県)尾上(兵庫県) 〈要約筆記〉全要研西原委員、県要連小川会長他 義援金第1次暫定支給を行なう。 総額1,020,000円 対象者102名
2 . 28	火	全要研藤城会長現地対策本部来訪し情報通信費を贈呈される。
3 . 2~8	木	第3次支援行動開始する。 神戸市兵庫区、長田区、須磨区、中央区、東灘区、灘区、垂水区、 西宮市、宝塚市、芦屋市、川西市、伊丹市、尼崎市、明石市、

月 日	曜 日	事 項
3 . 2~ 8	木	淡路地域を大阪府、岡山県、奈良県、滋賀県、京都府、兵庫県、京都市、大阪市等の難聴者 22 名要約筆記者 42 名が支援行動に参加した。
3 . 5~15	日	淡路全島、神戸市西部、東部、西宮及び宝塚、伊丹川西尼崎、を区分して補聴器等医療チームの避難所現地入り。
3 . 6	月	被災難聴者のためにファクシミリの寄贈申し入れがあった。 松下電機産業株式会社 4 台 リコー株式会社 10 台
3 . 12	日	現地対策本部にて義援金配分会議を開催した。 (出席者) 〈難聴者協会〉大上、中奥、尾上、松谷、上野、坂川、中嶋 池田、石田、加藤、西岡、境 〈要約筆記者〉小川隆、中村、保地
3 . 16	木	県補聴器メーカー販売店協会の宮永会長に第3次支援行動について報告と今後の協力を依頼した。
3 . 17	金	シャープ株式会社より F A X 2 台寄贈する旨連絡あり。
3 . 25	土	全国補聴器販売店、メーカー協議会より残りの救援補聴器 10 台を対策本部に預託をする旨の連絡を受けた。
3 . 30	木	文教大学田中助教授が来訪される。 難聴者の被災状況、情報入手事情等と第1次～第3次支援行動について質問があった。 なお、震災時における難聴者等の行動アンケート調査の協力要請があり協力を約す。
4 . 2	日	現地対策本部会議を開催し今後の支援方法について協議。 (出席者) 〈難聴者協会〉高岡全難聴理事長、大上本部長他 〈要約筆記者〉下出全要研事務局長他
4 . 4~15	火	救援対策として頂いた F A X を被災難聴者に届ける。16 台。

月 日	曜 日	事 項
5 . 5	金	義援金第2次配分協議と配分作業。 大上本部長、小川県要連会長他関係者にて行なう。 総額4,997,000円 対象者 459名 以降変更追加支払い498,000円 対象者48名
5 . 15	月	西宮市被災難聴者より補聴器給付要請があった。
5 . 31	水	現地対策本部の臨時電話を本日をもって廃止し、宝塚市総合福祉センター内のボランティア活動センターを使用することとして関係機関等各地域協会に周知する。
6 . 3	土	文教大学田中助教授対策本部来場しアンケート調査の協議する。
6 . 6	火	災害対策資料の整理。
6 . 17~18	土	全難聴総会で対策本部の経過の報告とお礼。
6 . 23	金	字幕放送テレビの寄贈に対するお礼の感謝状を松下電器に全難聴贈る。当日の理事長代理の大上兵庫県難聴者協会会長が出席。 当日の贈呈式の状況が毎日放送で放映された。
7 . 30	日	TC研究会『阪神淡路大震災より見える聴覚障害者問題』の分科会対策本部よりの報告を大上兵庫県難聴者協会会長が行なう。
9 . 9	土	全国要約筆記者静岡大会のシンポジウムにおいて対策本部の活動報告を行なう。
9 . 23	日	京都北部の聴覚障害者問題を考える集いに震災報告を行なう。
10 . 7	土	全国難聴者福祉大会横浜大会で支援感謝報告。
11 . 23	木	震災記録報告書編集会議を西宮市総合福祉センターで行なう。
12 . 23	土	震災を巡っての座談会を開催する（宝塚にて）
H8.1.13	上	第2回震災記録報告書編集会議（於・宝塚市総合福祉センター）
3 . 20	水	震災冊子の編集を終えて印刷発注。
4 . 10	木	全国関係者に発送予定（500部）

(3)-2 神戸市難聴者協会における活動記録

月 日	曜 日	事 項
1, 17	火	地震発生直後より会員の安否確認のためTELとFAXをし、直後に通じた所もあったがFAXは不通が多かった。 交通機関もバスのみで殆ど迂回運行。 近くの会員同志で協力し合って、或いは単独で安否確認に終始する。大半は無事ではあるものの、日頃付き合いのない会員については確認が遅れがちとなる。避難所が不明だったり避難先の交通が不通だったりそれがその理由。
1, 22	日	毎日新聞へ安否確認のとれない会員へ連絡の呼びかけを掲載する。
1, 24	火	全難聴副理事長・山口武彦氏が京都より片道7時間もかけて会長宅（神戸市兵庫区）を訪問。神戸市内での支援方法等について協議。この時点で会員の80%強の無事の確認が得られる。
1, 26	木	会長名で安否確認と被害状況、支援方法等の内容の文書を分担で全会員へFAX送信。FAXが不通の所や安否の確認がとれない会員には、地震前の住所で往復はがき（所在地を連絡してもらうため）を同封して郵送。
1, 27	金	神戸新聞へ要約筆記通訳者が必要な場合の連絡先を掲載。 会員の95%強の無事を確認。
2, 1	水	「第一回・全難聴現地対策本部会議」へ当協会より2名、OHP神戸より2名が参加。以後2月末日まで、全難聴現地対策本部の方々と共に数回にわたって避難所を回る。
2, 5	日	毎日新聞へ要約筆記通訳者が必要な場合の連絡先を掲載。 この時点で、ようやく全会員の無事を確認。
2, 28	火	「号外・第一号」発行。震災に関する情報（仮設住宅の申し込み方法、義援金や日常生活用具等の交付方法等）を満載し、分担で全会員へFAX送信。FAXのない会員には郵送。 以後、1996年3月上旬まで定期的に発行する。
3, 3	金	全難聴現地対策本部からの要請で避難所で補聴器に不自由をしている方には罹災証明があれば無償提供することを神戸新聞に掲載。
3, 19	日	震災後初の例会。当協会事務所のある市立総合福祉センター近くで、会員の近況報告も兼ねての集い。元気で再会できたことの感激にひたる。

月 日	曜 日	事 項
3 . 19	日	この日になってもガス、水道が使えない地域があった。電気は殆どの地域で使用可能だった。 会員の家屋の被害状況は全焼2棟、全壊18、半壊23、一部損壊26（3月19日現在概数） 当協会事務所のある市立総合福祉センターは幸いにも全壊は免れたものの、ロッカー2個、茶器類等は全て損傷した。
4 . 1	土	震災後、新幹線が開通。全難聴理事長・高岡正氏、全要研事務局長・下出隆史夫妻が来神。当協会の事務所を視察の後、避難所を巡回。
4 . 17 ～7 . 28		当協会の「震災相談本部」設置。 月曜日から金曜日まで午前10時から午後4時まで（土曜日は正午まで）専従者を当協会の事務所へ配属。 期間中、新入会者13人。 福祉機器（文字放送用アダプター、FAX、お知らせランプ、見えるラジオ、合図君、ライトーク、補聴器）等についての問い合わせ多数。 避難所から仮設住宅へ、親類宅へと移動された方が多く、住所やFAX番号の変更が多数。
4 . 16	日	例会。会員同志の激励も兼ねて「花より団子会」と称して須磨浦公園にて開催。雨にもかかわらず多数の参加者。
5 . 16	火	全国の難聴者協会、要約筆記サークル及び個人の方々から戴いた義援金を会員の方へ手渡す業務を開始。会員の98%の方に受け取っていただく。
5 . 28	日	総会。会場の確保が困難で苦慮した末での開催。例年になく多くの出席者。特に新入会者の参加が多かった。
7 . 2	日	例会。震災にちなんで「市民救命士講習会」を開催。 聴覚障害者を対象とする初めての試みとして、神戸新聞に掲載される。
平成8年 1. 17	水	震災一周年。 神戸市合同追悼式（ポートアイランド）では、OHPによる要約筆記通訳と手話通訳もつけて執り行なわれた。

(4) 阪神大震災に係る諸機関への要望

平成7年1月21日

NHK御中

162 東京都新宿区市谷台町14

MSビル市ヶ谷台2F

(社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

理事長 高岡 正

兵庫県南部地震のTV報道についてのお願い

このたびの兵庫県南部地震のTV報道に際しては昼夜を分かたぬ報道を続けていただきましてありがとうございます。私どもは聴覚障害者の団体で、中途失聴者と難聴者で組織されている団体です。このたびの報道では、私どもは残念ながら見ることはできても、アナウンスの内容が聞き取れず情報の入手に苦慮致しております。つきましては下記の通り要望致しますので、可能な限り聴覚障害者へのご配慮をお願い致します。

記

1. 報道のうち、重要な部分はぜひ手書きで構いませんので、文字で画面の一部に表示して下さい。このたび、NHK教育TVで消息をたずねる時間を取られていますがあの様な手書きのもので十分です。
2. ライフラインの情報は特にアナウンスの間、文字表示をお願いするとともに繰り返しの報道をお願いします。重要な報道で文字を出される場合は、文字の点滅表示もご検討下さい。・ガスの安全装置が働いてガスが止まった場合の元に戻すやり方は、図面で説明がなされていたと思いますが、時間をずらして何回か繰り返して報道していただきたかったと思います。
 - ・『危険な建物に近づかないで下さい』とか、『家の中でもガラスなどが散らばっていたら危険ですので、スリッパや靴を履くなどしたほうが安全です』とか、『火の元を確認し、ガスの元栓を閉めて下さい』とか、普段は常識になっているような事も今回のような地震のような場合はパニック状態になってしまい、つい忘れがちです。そのために報道していただくのですから、耳の不自由な私たちにも分かるようにしていただきたいと思います。
3. 聴覚障害者や、お年寄りで耳が遠くなった方々は、画面に文字が出ない限りアナウンスの内容が全く伝わらないことをご認識いただきたいと思います。
4. アナウンス中に飛び込み原稿が入る場合は、まずテロップや文字板が画面に出ません。耳の聞こえない私たちは、なにごとが生じたのかと心配になります

が、それっきりで次の話題に移って行くので、とても気になります。特にこの地震の被災地では地滑りの危険性が予想されますが、アナウンスの間、このような命に関わる報道は、どんな走り書きでも結構ですので、その注意事項を画面の下にでも表示して下さい。

今、22日の午前零時のNHKのTVニュースが流れていますが、『70ミリの雨量が予想されるので、地滑りなどに十分ご注意ください』とアナウンスされています。しかしながら、聴覚障害者は全くその情報を知ることができません。なぜ、文字化して画面に出していただけないのか残念でなりません。それとともに、障害者への配慮が報道に欠けていると思わざるを得ません。

なにどぞ、以後の緊急放送に際しては、全国の視聴者に報道するのだという考えでもって必ずテロップか文字板を画面に表示していただけますようお願い致します。

これは、台風情報でも津波情報でも私たちが常に不安と不満を抱くところです。

この度の戦後最大の兵庫県南部地震災害について、難聴者・中途失聴者の立場から下記の通り要望致します。

1. 報道はテレビ画面である程度掴めるものの詳しいことがまるで分かりません。アナウンサーの状況報告が、我々には全く内容が掴めないのです。中程度以上の難聴者にとってはアナウンサーが「金魚」に見えるだけで、状況が判からない分もどかしさで、猛烈な不愉快さに襲われます。是非字幕を入れて下さい。何も綺麗な文字でなくとも良いのです。極端な話、なぐり書きでも、文字が読めれば状況が分かります。全国には「要約筆記者」がいますので、こういう時、要約筆記者を使って、画面下に3行位ずつ字幕を入れて下さい。そうすれば全国300万人以上の難聴者にも内容が分かり、緊急対応、行動が取れます。デコーダーですらまだ実施されていません。
2. これはテレビだけのことではありません。現地で避難している多くの高齢者、難聴者は、マイクの呼掛けの内容が分からないのです。大事な水や食料を何時にどこに行けば貰えるか、知らない間に全部終わっていて、後の祭りということが多いのです。皆の行動につられて動いてやっと何とか間に合うケースもありますが、基本はメモの回覧や緊急掲示に限ります。文字による連絡が必要不可欠です。アナウンスの他に必ず「掲示板」「張り紙」をつけて下さい。
3. 生き埋めの人についても同じ事が言えます。「頑張れ」という声が聞こえない。何時にどうなるのか、紙に書いて示す必要があります。今の状況を知ることでも心も安らぎ、苦難に耐えることができるのです。
4. 今回兵庫県難聴者協会会員が2名亡くなりました。詳しい原因を調べる必要がありますが、場合によっては音による情報のほかに文字による情報があれば、適切な行動を取れた可能性があるのです。文字による情報を率先して実現頂き、いろいろな他のケースの情報保障手段の好例を示して下さい。

1995年1月24日

(財)全日本ろうあ連盟理事長 高田 英一

(社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会理事長 高岡 正

兵庫県南部地震における聴覚障害者救済についてお願い

日頃は聴覚障害者の福祉向上、情報保障のためご理解賜り厚く御礼申し上げます。
さて、兵庫県南部地震において、私どもの会員も大きな被害を受け、その救出、支援に全力を挙げて取り組んでいるところでございます。

現地において何よりも切望されておりますことは、電気、電話が切断されているために全く状況が把握できないので、情報が欲しいということです。

テレビ各局は、連日、当地震に関する報道を続けておりますが、私ども聴覚障害者は、全くわからない状況です。このため、両団体ともNHK、NTT、厚生省他関係機関に文字、手話による情報提供を強く要望しております。

こうした中で、NHK、テレモ日本他の文字放送で、ニュースや災害情報等が多く提供されております。文字放送は、音声で消えてしまう情報を文字でいつでも繰返し見られるため、聴障者のみならず健聴者にも最適のメディアです。

これを見るための文字放送デコーダーとテレビの給付を厚生省、神戸市、兵庫県へ強く要請しております。

つきましては、私どもは貴会に以下を要望させて頂きたく、何卒御高配の程お願い申し上げます。

記

1. 被災地聴覚障害者団体に文字放送テレビ（プリンター付）を寄贈して頂きたいこと。

寄贈先

- | | | |
|---------------------|--------|-----|
| ・ (社) 兵庫県聴覚障害者協会理事長 | 須磨 喜三郎 | 2 台 |
| ・ 兵庫県難聴者福祉協会会長 | 大上 清 | 1 台 |
| ・ 神戸市難聴者協会会長 | 中奥 信多加 | 1 台 |

2. 文字放送画面をプリントして、FAXで会員に配布するための著作権の許諾を免除して頂きたいこと。
3. 被災地災害対策本部、避難所に文字放送テレビの設置をされたいこと、あわせて関係機関に文字放送の利用を呼び掛けられたいこと。
4. 文字放送の被災地情報関連番組に、聴障者コーナーを設けられたいこと。

1995年1月26日

(財)全日本ろうあ連盟理事長 高田 英一殿

(社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会理事長 高岡 正殿

文字放送普及推進協議会

日頃は文字放送をご利用いただき有り難うございます。この度の阪神大震災で亡くなられた会員の皆様のご冥福をお祈り致しますとともに、罹災された会員の皆様を心からお見舞い申し上げます。

さて、1月24日付けで当協議会にご要望いただきました件のうち、文字放送受信機の寄贈につきましては、当協会に参加するメーカーの協力により下記のとおりお送りすることにしましたので、ご連絡申し上げます。

記

1. 被災地聴覚障害者団体への文字放送受信機の寄贈

各メーカーから直接お送り致しますので、設置方はよろしくお願い致します。

2. 文字放送画面をプリントして、FAXで会員に配布されることにつきまして
も今回限りのこととして、了解致します。

以上

寄贈先	機器内容	台数	担当メーカー
(社)兵庫県聴覚障害者協会	文字内蔵型テレビ デコーダー及び プリンタ	1	松下電気産業(株)
		1	(株)富士通ゼネラル
兵庫県難聴者福祉協会	文字内蔵型テレビ 同上用プリンタ	1	(株)東芝
		1	
神戸市難聴者協会	文字内蔵型テレビ デコーダ プリンタ	1	シャープ(株)
		1	ソニー(株)
		1	(株)富士通ゼネラル

3. 支援活動の概要

(1) 現地対策本部からの報告

全難聴阪神淡路大震災現地対策本部長

兵庫県難聴者福祉協会会長 大 上 清

1. はじめに

関西は地震に強い、誰もがそう思い備えのない街を直撃し家屋等に壊滅的な被害と多くの犠牲者をだした未曾有の震度7大震災。

あの日から半年、今、被災地では街の様子も少しづつではありますが落ち着きを取り戻し復興に向けて動きだしました。

ライフラインは全て途絶え、交通、通信機関は切断、かつて体験したことのない避難所生活等被災した難聴者達は、その時どう対応したのか。

150日余の支援活動を通じて得た私の情報と被災難聴者の声を交え本部からの報告とします。

2. 地震直後の24時間

地震の発生直後の情報は皆無に等しい状況にありました。私の場合、停電でテレビ、FAXは機能しないのでラジオと電話（被災地との通話は不能）を家族に聞かせて親戚、知人、友人の安否確認、情報の入手に努力しましたが激震地からの情報は全くダメでした。漸くして通電しテレビの映像（無声）で神戸市長田区の惨憺たる火災の状況等を見て被害が広域でしかも甚大であることを初めて知りました。

早速、宝塚の市街地の被災状況を知るため自動車で出かけましたが、信号機の故障等で交通は混乱し容易に動ける状態でなく途中から引き返し、翌朝、身仕度して徒歩で市内の会員宅を訪ねて回りましたが、激震地の芦屋、西宮までは手が届きませんでした。大きな被害を被り、そのうえ身体の不自由な高齢者、障害者の立場を思うと胸が痛みます。

ある被災難聴者は

- …夜は補聴器をはずして寝るので置いたところは覚えているが大きな揺れでどこへ飛んでいったか見あたらない、幸い古い補聴器を持っていたのでそれを使っていたが、しばらくすると電池が切れて情報は入らず会話もできず本当に困りましたと話されていました。又、別な方ですが
- …家の電話が通じないので親戚や知人の安否を確認するため公衆電話でと思っていったが「めいりょう」（音声拡大装置付電話）が装置されていませんし、そのうえ大勢の人が順番に並んで待っておられたのであきらめて帰りましたが、難聴者の悲哀を感じました。
- …ライフラインが断たれて、断水して水道局の給水車が回ってきても放送が聞こえないので何度か貰い損ねました。近所の人に通報をお願いするにも、ご自分の事だけでも今は精一杯と思い大変気遣いしました。とにかく聞こえない話せないことは人にも言えない苦勞の連続ですと、ある女性会員が語っていました。

3. 被災難聴者の支援活動について

(1) 現地対策本部の設置

全難聴高岡理事長より現地対策本部の設置の要請を受け、会員を対象とした被災状況の把握、情報提供、相談等の支援活動を目的とした拠点本部を宝塚市総合福祉センターに設置することとして、臨時電話の取り付け、対策本部詰め要員の確保、手話、要約筆記ボランティアへの派遣等必要事項を調べて1月25日に発足させました。

(2) 初動以後の支援行動の状況（第1．2．3次の支援）

支援活動には、全国要約筆記問題研究会（全要研）と全難聴加盟の近畿ブロック難聴者協会、要約筆記サークルの全面的協力を頂き激震地の神戸、芦屋、西宮、宝塚等の避難所を中心に必要な支援内容の聞きとり調査を兼ねて贈られてきた救援の補聴器電池、救援情報チラシ等を携行し手分けして巡回訪問を実施しました。第2次の支援行動では全国の補聴器メーカー協議会と販売店協会より被災された難聴者で補聴器を無くしたり壊した方に贈られてきた300台の補聴器無償給付と無償修理の救援広報を全地域の避難所で実施しました。

しかし希望者は殆どが高齢者で補聴器装用のため補聴器店まで出向くことが困難で折角の補聴器が役立たないことが判り、その対応として兵庫、大阪の心身障害者リハビリセンターに所属されるST（聴能言語療法士）の方と補聴器販売店協会の協力を得て、現地で補聴器の調整を行ない対象者に給付し大変感謝されました。

因に、支援行動や対策本部に協力下さった要約筆記ボランティアと難聴者の数は、延べ737名（難聴者353名、要約筆記者384名）に及びました。又、支援に必要な救援物資の補聴器や電池、FAX機器、FAX用ロール、文字放送内蔵テレビ、同プリンター等各方面より贈られ支援活動の成果を収めることができました。又、全国の難聴者協会、要約筆記サークル、個人の方々より寄せられた心あたたまる義援金も、当初、全難聴本部が予定されていた目標額を遠に超え、全難聴理事長と全要研会長より被災された所属難聴者会員と要約筆記者の方々478名の皆さんにお見舞金として頂き、被災地の各協会、サークルの代表者を通じてお届けいたしました。

(3) 復興に向け震災後期の支援活動

3月末日をもって全難聴現地対策本部を閉鎖し4月以降の震災業務は神戸市難聴者協会と兵庫県難聴者福祉協会が組織活動の中で引続き実施することに決定いたしました。

兵庫の場合は、宝塚市福祉センターの本部をそのまま震災対策連絡所として専任の震災対策部長を設け、復興に向けての行政手続き等の相談、助言活動等に当たっております。神戸市の場合も同様に協会事務局に専従者をおいてFAX相談に応えています。

宝塚で震災後に私達の会に加入された女性の方のことですが、一人暮らしで今回の地震で家屋が全壊し、今は会社の寮で生活されています。処が元居住の被災地域で住宅復興計画の話が進み、何度か開催される説明会に案内を受けたが、行っても聞こえないので困って市役所に相談に行き、初めて要約筆記者による

筆記通訳のこと、公費で派遣される制度のあることを知り、早速、事業委託されている私達の会に派遣登録すると共に「会員に加入させて下さい」と申し出されました。（会員にならなくても派遣登録すれば何時でも公費派遣できる）

この様に震災後における仮設住宅の人居、復興に向けての行政説明、手続き、地域での話し合い等でコミュニケーションの不自由な聴覚障害者や目の不自由な方達への対応問題は、私達障害者自身が声を大にして社会に訴えなければと痛切に感じました。

4. 震災が残した多くの教訓

(1)防災マニュアル（高齢者障害者対象支援マニュアル）

過日の日刊新聞に、今回の様に広域災害で災害対策本部が機能しない場合の代替機能をいかに確保すべきかといった視点が欠落していたのではないかな。いかなる状況にも的確に対応ができる地域防災マニュアルの確立と広域防災体制の整備を急がなければならないと報じていましたが、私達の様な心身に障害を持つ者や高齢者に対応した緊急時における支援方策を地域防災マニュアルの中に反映させなければならないと思います。

(2)情報ネットワーク

地震発生後数日して全難聴情報保障部長がパソコンネットワークを通じて得た情報の収集提供の対応は正解で大いに役立ちました。

又、テレビ文字放送での犠牲者名簿、被災状況等の報道をプリンターに読み取る等は誰にも理解され素晴らしい威力を発揮しました。

情報取得にハンディを持つ視覚、聴覚言語障害者に対応して文字や音声等を総合的に扱える情報伝達手段で、双方からアクセスが可能なマルチメディアを駆使したネットワークの整備が必要であると思いました。

震災地神戸ではこの度の経験を踏まえ「産官学民」一体で防災や復興情報を重点においたマルチメディア・インターネット協議会が発足したと7月8日の神戸新聞朝刊で報じていましたが、まさしく震災から得た教訓が生かされたと思いました。

(3)福祉のネットワーク

在宅介護ネットワーク代表の西脇創一氏は「今回の震災では高齢者、障害者の死傷者数が多かったが、いくつか共通点がある。住宅は老朽木造の文化住宅が長屋、そして年金、生活保護暮らしで、日常生活行動能力の乏しいことである。こうした日常からの生活面で見守りの必要な人達への公的援助の手が届いていない。まさしく人災と言われるゆえんである。」と阪神大震災以降…震災に生きる障害者…の中で述べておられます。

こうした事実を踏まえて障害者団体、老人クラブ、ボランティア、民生委員、自治会等地域を網羅した助け合いを組織化した福祉のネットワークが必要と思います。守備範囲に限定される行政依存では緊急時には対応できません。

処が大きい壁が立ち塞がっております。プライバシー保護のため情報公開に制約があって障害者である市民一人一人の存在を知ることがここ数年前よりできななので、ネットワーク化、障害者の自助組織等の結成を遅らせている一つの要因になっています。この対応をどうするかが課題・・・

(4) ボランティアの存在

震災で約2ヶ月の間に救援活動に参加したボランティアの人数は103万5千人と兵庫県が推計されている。(草地賢一氏：市民とボランティア資料より) このボランティアの働きなくして救援活動は困難であった事を誰もが認め評価しています。

ろうあ者、難聴者にとって要約筆記、手話通訳のボランティアの協力なくして社会参加も容易でないのと同様に、震災を契機にボランティアの正しい価値意義をしっかりと認識すべきであると思います。

5. おわりに

震災以来、身辺雑事はともかく支援活動等で超多忙を極めているうちに、いつの間にか木陰がほしい暑い夏の季節となってしまいました。大震災でかけがえない尊い生命や苦勞して蓄財されたものを失った方の悲しみは言葉に言い表わせない程大きいと思います。この悲しみを乗り越えて大震災が残した、いくつかの教訓を無にすることなく、誰もが慣れ親しんだ地域で安心して暮らし続けていけることを願って・・・以上

※参考資料 酒井道雄編「神戸発阪神大震災以降」岩波新書
(震災に生きる障害者：西脇創一氏)
(市民とボランティア：草地賢一氏)
神戸新聞7月8日朝刊記事

なお、この報告書は平成7年7月30日昭和大学にてトータルコミュニケーション研究会(TC研究会)主催の分科会「阪神大震災から見える聴覚障害者問題」で講演した内容です。

(2) 支援行動の状況について

(2)-1. 支援体制と緊急情報

事 項		芦 屋 市	西 宮 市	宝 塚 市	そ の 他 (災害地関係の聴覚者要約筆記者の所在地)
活動できる要約筆記者数		3 名	10 名	10 名	川西 5 名 伊丹 5 名 明石 5 名 淡路 5 名
活動の拠点	所 在 地	芦屋市橋通町7-6 芦屋市災害対策本部障害福祉課	西宮市六湛寺町10-3 西宮市災害対策本部障害福祉課	宝塚市東洋町1-1 宝塚市災害対策本部障害福祉課	川西市聴覚者協会会長 西岡正晴 川西市栄町6-29 FAX 0727-57-4774 川西サマリー代表 茶木秀勝 川西市栄町15-17 TEL 0727-59-3278 伊丹市聴覚者協会聴覚者会長 石田信彦 伊丹市西台3-8-16-509 FAX 0727-83-9437 伊丹市要約筆記者代表 市原陽子 川西市久代4-6-18-433 TEL 0727-57-8739 尼崎市聴覚者協会会長 加藤友明 尼崎市尾浜町3-18-2 FAX 06-429-6458 明石市聴覚者協会会長 中嶋一平 明石市藤江1028 毛石コーポ FAX 078-922-3797 明石市要約筆記者代表 木本桂子 明石市大久保町東・丘12-18 TEL 078-935-9128 淡路聴覚者協会会長 坂川正昭 三原市南浜町東葉集井480 FAX 0799-54-0640 淡路要約筆記者代表 中山佳子 洲本市港部2-11-14 TEL 0799-22-7518
	連絡方法 TEL FAX	TEL 0797-31-2121 福祉係長 FAX 0797-31-2162 川田氏	TEL 0798-35-3130 FAX 0798-35-5300	TEL 0797-71-1141 障害福祉課長 FAX 0797-72-8086 土井氏	
	代表者氏名	芦屋市聴覚者協会会長 辻本信子 芦屋市要約筆記の会(西田)会長代行 岡島秀子	西宮市聴覚者協会会長 池田一義 西宮市ベンの会会長 三浦容子	宝塚中途聴覚者の会会長 大上 清 宝塚サマリー会長 小川隆子	
	連絡方法 TEL FAX	辻本…FAX 0797-31-7975 岡島…TEL 0797-31-2269	池田…FAX 0798-35-5758 三浦…TEL 0798-33-1736 F. 33-6296	大上…FAX 0797-91-0488 小川…TEL FAX 0797-72-5407	
避難所の状況	避難所数	55	174	54	
	全上 中聴覚者避難箇所と人数	不明	8箇所……10名	1箇所……1名(夫婦)但し骨折で実家で静養31迄	
	FAXの有無	公的施設避難所…全設置	174箇所中53個所有り		
	その他 (必要な支援)			避難者は大体は自宅の片付け	
活動の状況	災害対策本部待機者数	岡島他2名	赤瀬他9名	西山他8名	
	避難所巡回者数	8名	随時巡回聴覚者同伴5名	随時巡回2名	
	外部よりの応援者数	5名	0名	0名	
	外部への応援可能数		5名	3名	

※この体制は1月30日のものであり状況の変化を見て適宜対応する。

神戸市関係については神戸市聴覚者協会で要約筆記サークル「OHPこうべ」と連携し避難所巡回及び会員の被害状況等の把握に努める。

尚、県外よりの応援については対策本部が状況を見て要請する。

震災初期における緊急情報

【参考資料】

阪神大震災緊急情報

No 3. 1. 26

各市難聴者協会会長様
(現地対策委員)

兵庫県難聴者福祉協会地震災害対策本部
宝塚市安倉西2-1-1
宝塚市総合福祉センター団体事務室内
☎FAX 0797-81-4651
(夜間の連絡FAX) 0797-91-0488

1. 被災者への情報確保について
災害地の各市対策本部に対し本会より中途失聴難聴者への情報確保として要約筆記者を必要とする場合は本会対策本部に申込するよう避難者等への周知方の要請をしました。
従って今後、災害対策上の諸手続き等に要約筆記者を必要とする場合は何時でも派遣できるよう兵庫県要約筆記サークル連絡協議会の全面的支援を受け態勢を整えておりますので各協会でも会員に周知してください。
2. 補聴器の再給付申請について
災害を受け補聴器を失ったり破損した場合は最寄りの福祉事務所に申し出て頂くと再交付をしていただくことができます。
その本人又は代理者が身体障害者手帳を持参し提示して下さい。福祉事務所で供給先の補聴器業者に連絡されます。
又、神戸市内等の被災地で補聴器を購入され修理等に支障があると思われる方は大阪、姫路等の補聴器店でも十分対応できます。もしその様な時に補聴器店がよく判らない場合は本会対策本部、又は地元協会の会長に連絡して処理することとします。(業者一覧表は地元協会の会長に連絡済)
3. 聴覚障害者専用老人ホームの緊急受入れ対策に伴う希望者有無の調べ
京都府綾部市にある聴覚障害者専用老人ホーム「いこいの村梅の木寮」では今回の災害に伴う支援措置として、被災された一人暮らしの聴覚障害者等を緊急に受入れることを決定し本日(1月26日)対策本部に入所希望者有無の照会がありました。
被災者の中にこうした老人ホームに一時的にも入所希望者があれば是非お世話してあげて下さい。
とにかく希望者の有無を1月31日頃までに調べて対策本部に連絡して下さい。
4. 被災者に対する制度面の問題について
全難聴情報保障部長より別紙の通り情報が届きました。
一応参考までに送信しますが詳細は最寄りの福祉事務所でお尋ね下さい。
特に、こうした減免があるとか給付されるとか、家屋等の改築資金の融資制度、借地借家の権利関係等今後災害に関連して制度面についての情報に留意して下さい。
対策本部でもできる限り早い機会にこの問題について専門家をお願いして勉強会を開催します。
5. その他
1月29日のNHKの聴覚障害者の時間に被災地の状況等が報道されます。
注意して見て下さい。
※地震災害情報については対策本部の設置以前は本会事務局より連絡しておりましたが今後は対策本部で行ないます。
従って各地の被害状況についてはまとまり次第速報で連絡します。

阪神大震災緊急情報

No 4. 1. 27

各市難聴者協会会長様
(現地対策委員)

兵庫県難聴者福祉協会地震災害対策本部
宝塚市安倉西2-1-1
宝塚市総合福祉センター団体事務室内
☎ FAX 0797-81-4651
(夜間の連絡FAX) 0797-91-0488

1. 対策本部専用FAXの設置と電話番号の誤りについてのお知らせ

★当対策本部の効率的活動を図るため専用の臨時FAXを取り付けました。

FAX番号は **0797-81-4651** です。
(電話兼用)

★先にご案内しております宝塚市ボランティア活動センターの電話番号に誤りがありました。ご面倒ですが関係者等に周知方よろしくお願いします。

~~0797-81-2447~~ を
0797-81-2443 に訂正

なお、各災害地の市対策本部には当対策本部より直接通報しておりますが貴殿におかれても念のため市対策本部に出向き上記専用FAXの取り付けと電話番号の誤りの訂正についてお知らせ下さい。

2. 生活福祉資金特別貸付(被災者用)のお知らせ

兵庫県社会福祉協議会では阪神大震災により世帯員の死亡や負傷、住宅の損壊等により生活に困窮し緊急に生活支援を図るための資金が必要な世帯に対して、当座の生活資金の貸付を行ないます。

★貸付金額

限度額…一世帯あたり10万円(特別な事情のある場合 20万円)

★申込方法

生活福祉資金特別貸付借入申込書に記入のうえ本人で申込する。

※連帯保証人欄は連帯保証人の本人が記入

※避難中等ですぐに連帯保証人の手だてがつかない場合は窓口で相談

①持参するもの

身分証明証 保険証 身体障害者手帳 免許証 パスポート等で本人であることが確認できるものと印鑑

住居の損壊で不可能な場合は窓口で相談する

②後日提出するもの

被災者証明書 印鑑証明書(借受人、連帯保証人とも)

償還に関する書類

③申込書配布及び申込場所は最寄りの福祉事務所又は市社会福祉協議会で尋ねて下さい。

★資金の交付

申込書記入事項確認の上、受領証 借用書と引き換えに翌日以降指定した日時に受付た場所で交付される。

★利率 年利3% ただし据置期間中(1年以内)は無利子とする。

★償還方法

据置期間経過後4年以内 月賦(元利均等払い)

据置期間1年以内

★受付日時

平成7年1月27日(金)より

阪神大震災緊急情報

No. 7. 1. 30

各市難聴者協会会長様

(現地対策委員)

兵庫県難聴者福祉協会地震災害対策本部

宝塚市安倉西2-1-1

宝塚市総合福祉センター団体事務室内

☎ FAX 0797-81-4651

(夜間の連絡FAX) 0797-91-0488

芦屋市難聴者の会員被災状況調査の実施について

芦屋難聴者協会の会員の被災状況の把握と今後の対応に備えるため要約筆記サークル代表(西田さん被災され転居のため代理として岡島秀さんをお願いした)の同行を願い芦屋市役所震災対策本部障害者担当を訪問し協議の結果1月31日兵庫県要約筆記サークル連絡協議会所属の要約筆記サークルの派遣を下記の通り要請し未確認の会員の消息及び被害の状況把握に努めることとしました。

記

1. 実施期日

1月31日午前10時30分～終了まで

2. 調査協力サークル

芦屋要約筆記サークル	……	岡島他2名	その他三田サークル要請中
川西	々	……	小野他1名
宝塚	々	……	小川他2名
合計			8名

3. 集合場所等

JR芦屋駅10時30分集合し直ちに4班編成で現地を徒歩で約17名の会員の住所を訪ねて調査を実施する

4. 調査事項等

調査事項等は統一し県要連小川会長と岡島代表とで協議し遺漏なきよう留意する。調査終了後は市役所災害対策本部障害者担当(経済課内 障害係長川田さん)の部署に集合し結果を集約し直ちに市対策本部及び県難聴対策本部に報告する。以後の対応については調査結果の内容を検討し対策本部より要請する。

(2)-2. 第1次行動計画

支援活動時における確認事項

1. 被災会員の激励を主とするが同時に次の事項を確認する。
 - ①避難所における生活上の支援要望の内容
補聴器の調整、電話の代行、所内放送の通訳、その他再建計画に伴う諸手続きの代行等
 - ②家屋等の損壊状況の調査
 - ③今後の連絡方法
避難所または住居予定の所在と電話番号
2. 支援活動に参加した関係者は実施後、速やかに結果を対策本部に報告し、事後の支援活動に繋げるようお願いしたい。

実施期日	支援活動参加協会名	訪問避難所及び状況確認	集合場所
2月3日	京都府の協会 山口 神戸市の協会 相川 京都府のサークル 西原他	西灘区避難所 西灘区居住者	新神戸駅 10時30分集合
2月5日	大阪府の協会 上野 宇田 兵庫県のサークル 小川 他2名	聖家族幼稚園 兵庫区居住者	神鉄鈴蘭台駅 10時集合
2月5日	兵庫県の協会 藤田他 兵庫県のサークル 2名 神戸市のサークル 石角	平野小学校 兵庫区居住者	神鉄鈴蘭台駅 10時集合
2月6日	兵庫県の協会 大上他 兵庫県のサークル 2名 神戸市のサークル 石角	須磨小学校 兵庫区居住者	神鉄鈴蘭台駅 10時集合
2月7日	京都府の協会 田代 千葉 京都府のサークル 西原他 神戸県のサークル 石角他	神楽小学校 長田区居住者	神鉄鈴蘭台駅 10時集合

H 7. 2. 10 作成

—36—

支援活動計画

【参考資料】

平成 7 年 2 月 1 日

NHK生涯学習版組部

田 畑 様

兵庫県難聴者福祉協会地震対策本部
宝塚市総合福祉センター内団体事務室
TEL. FAX 0797-81-4651

阪神大震災被災難聴者等に係る

支援活動対策会議の協議決定事項について（報告）

2月1日対策本部にてみだしの協議を行ない次のとおり決定し実施することと致しました。

記

1. 協議議題

神戸市域等における被災難聴者中途失聴者の支援活動について。
被災地域における難聴者会員の安否と被害の実態を把握し効率的な支援活動を実施するための具体案を検討し今後に備える。

2. 協議に参加した関係者

全難聴山口武彦副理事長
全要研運営委員西原委員
兵庫県難聴者福祉協会地震対策本部長
神戸市難聴者協会長
兵庫県要約筆記サークル連絡協議会長
神戸市要約筆記サークル会長
兵庫県難聴者福祉協会事務局長 西宮市難聴者協会長

3. 協議決定事項

第一次行動計画を神戸市域として次の通り決定し実施します。
西宮市 芦屋市 宝塚市その他地域はすでに実施中
第二次行動計画は第一次行動計画実施後検討する。

阪神・大震災緊急対策本部

1995年2月10日

各地域協会長様
(各対策委員)

兵庫県難聴者福祉協会地震災害対策本部
宝塚市安倉西2-1-1
宝塚市総合福祉センター団体事務室内
☎ FAX 0797-81-4651
(夜間の連絡FAX) 0797-91-0488

第2次支援行動についてお願い

2月9日緊急対策会議を開催し次の計画とおり実施することを決定しました。
各位におかれても何かとご都合があろうと存じますが、ご協力ご支援をお願いします。

記

1. 第2次行動計画は別紙の通りです。

この計画は神戸市内は各区ごとに各協会が責任分担して実施予定期日中に実施日時を決めて、適宜行動を行なって頂くこととしています。

従って各協会の会長、又は事務局長は協会に派遣要請された人員を会員中よりお願いしていただき行動班を編成し派遣要請された各区に現地入りして実施下さい。

その場合、1チーム最低、難聴者1名と要約筆記者1名でお願いします。

要約筆記者の派遣については全要研より各府県の要約筆記サークルに要請されていますが、行動派遣地を同じくする地元の要約筆記者の代表とご連絡いただき実施期日とか集合場所時間等又、行動チームの編成内容を事前によく打ち合わせて間違いのないようよろしくお願いします。

なお神戸の要約筆記者の方は被災者で活動される方が少なく、又参加頂いても条件があります。まだガス水道が断たれておりますので時間等に制約されています。しかし、できる範囲で行動班の中に加わっていただきました。しかし神戸の方であっても市内の地理に詳しいとは限りませんので、その点ご承知おき下さい。

各協会で実施行動の具体計画ができますと対策本部に連絡して下さい。

大阪市の新谷会長は芦屋市の要約者との連絡は本部よりしますので、行動予定が決まりましたら本部までご連絡下さい。

2. 行動班の実施内容は、計画の備考欄にありますように各避難所を巡回して頂き、避難所の責任者等と面接し主旨を述べ、用意して持参した貼紙の掲示を要請して下さい。貼紙の枚数は避難所生活者の数を勘案して適宜お願いします。

なお、避難所生活者の中に、耳の不自由な方の情報保障としてマイク放送に代わる文字標識等も併用して、難聴の生活者の不便解消に努力して頂くようにお願いして下さい。その他、避難所以外の公的施設(例えば郵便局とか区役所等)にも掲示してもらって下さい。

3. 今回の貼紙は補聴器の給付とか修理等も、補聴器メーカーとか販売店協会の支援でかなり対応ができることが、昨日連絡がありましたので、その内容も掲示頂くように用意しておりますのでよろしくお願いします。

4. 現地入りされました各協会の会長は実施後、活動内容をまとめて本部にご報告下さい。特に派遣者の人員氏名等も記録しておいて下さい。後日の参考に使用しますのでよろしくお願いします。

5. 補聴器の耳かけ式の空気電池も救援物資で載いておりますので、現地入りされる時には持参して下さい。昨日の会議後お渡しいたしました、当日都合で出席出来なかった協会は少しですが送りますので現地入りされた時に必要な方にお渡し下さい。

6. 救援物資として「耳マーク」と「濡れティッシュ」を戴きましたので行動される方で使って下さい。

7. その他、何かありましたら対策本部に連絡下さい。

(2)-3. 第2次行動計画

対策会議における被災難聴者支援第2次行動計画に至るまでの経過と背景について

現地対策本部長

本日は大変ご多忙の中を、しかも火急な会合でご迷惑だったと思います。特に平日の開催で仕事の関係上、出席できなかった皆様には誠に申し訳なく思っております。しかし、こうした災害に対応するための手立ては一刻でも早くする必要があると判断し開催しました。又、行動を開始する場合の日程等も考慮してのことです。

さて、今回の大震災に寄せられました皆様方の温かい御支援に対し心より感謝申し上げます。県下の会員で3名の方が亡くなりました。負傷者、家屋等の損壊を被られた方達も100名余あります。又、私達を支えてボランティア活動を頂く要約筆記者の方々も大きな被害を受けられました。

そうした状況の中で地元協会としては会員の支援活動拠点として1月25日に対策本部を当宝塚福祉センターに設置し全難聴対策本部との連携と指導助言を仰ぎながら活動を続けてまいりました。もちろん私達の活動には要約筆記者の協力なくてはできませんので、全要研をはじめ地元県要連、神戸のOHPの皆さんには大変ご苦勞をおかけしております。初動活動が他団体に比べ鈍いと批判されておりますが、真に役立つための支援活動は決して疎かにはしていないと自負しております。組織の力で華々しく報道されるのと違い、地道に努力して参りました。ところが、被災日より日時が経過するに従い、避難所における会員以外の難聴者問題、特に高齢の難聴者等を視野にいたした情報保障の支援活動が急務となって参りました。全難聴は全国で法人化された唯一の難聴者・中途失聴者の組織体である以上、当然こうした被災時の支援活動には全力を注ぐ責務があります。

こうした状況の中で要約筆記者の全国組織である全要研より、積極的な支援の手がさしのべられ当対策本部としても地元県要連とも協議し、第1次支援行動活動を2月4日より7日にかけて全難聴近畿ブロックの一部の協会と近畿の要約筆記者の応援を頂き実施しました。第2次の行動については第1次の成果を踏まえて開始する予定でありましたので、本日各位よりのご意見等を伺い計画を策定し実施に移したいと考えております。

私達の友好団体で同じ聴覚障害者団体である「ろうあ連盟」は連盟本部と近畿組織を網羅し地元協会をバックアップし強力な支援活動が展開されている状況は難聴者団体としても大いに学ばなければならないと思います。

皆様方の一層のご支援をお願いします。

緊急情報

避難所生活されている

難聴者中途失聴者の皆様へ

難聴者中途失聴者の皆様、全国の
同障者から支援が寄せられています。
お困りのことがあれば、下記現地对
策本部へFAXして下さい。

全難聴現地对策本部

宝塚市総合福祉センター内団体事務室

FAX（☎兼用） 0797-81-4651

- ①補聴器、補聴器用電池、ファックス
等壊れた方は再検討されます。
- ②病院、学校、住宅などの交渉に要約
筆記通訳者を派遣します。
- ③対策本部でも補聴器用電池等をお渡
しできます。
- ④その他なんでも相談下さい。

※これは支援活動で各避難所に貼り付けたお知らせポスターです

第2次行動計画実施報告の概要

全難聴地震災地対策本部

H7.2.18作成

実施地域	担当協会(担当者名)	行動日	訪問箇所数	難聴者数	ビラ給付	特記事項
灘区	(京都) ⑦山口・坂本 (京都) ⑧福地・三井・田尾・加藤・上松・小山 荒谷・千代・西原・磯島・寺田	2月12日 13日	28 24	8 4	25 24	高齢者で身障者手帳の無い方が多い。どこの避難所も難聴者の状況は把握されておらず明確な返事が得られない。「耳の遠い人」が3~4名と、ろうあ者夫婦が避難されていた。800人、1000人という大きな避難所は難聴のことについての意識がない。
兵庫区	(兵庫) ⑦森田・山中・沼田・小野 (兵庫) ⑧永山・笹・時 (兵庫) ⑨佐藤・西山・植田・小川・山田・室崎 ⑩西角・中西 ⑪森田・多田・西田・中嶋・小前他1名	2月12日 14日 15日	24 44 18	5 8 5	24 45 18	助産婦(70歳)が震災の外傷による難聴、補聴器についての相談があった。避難所責任者による状況把握がよく、的確な返事が得られた。炊き出し中心である。
長田区	(大阪) ⑦山本・池田・上野・新田・小川・竹下 ⑧上野・流郷・尾崎・天野・横田・白神	2月12日	50	29	42	避難者リストを区役所で事前に手配してほしかった。ろうあ団体よりの訪問がなされている。
須磨区	(兵庫) ⑦後藤・石田 (兵庫) ⑧川端・豆崎・森川・西島・永井 (兵庫) ⑨後藤・石田・尾上・小川・中居 (兵庫) ⑩山本・大岩・垣・森本・川端・中村 後藤・中居 (兵庫) ⑪尾上他1名 ⑫岡本・小西・中居	2月12日 13日 14日 16日	19 17	2 3	19 17	訪問途上で補聴器の電池がないと訴えた方があったので渡した。 電池を渡す。
東灘区	(滋賀) ⑦坂垣 (滋賀) ⑧藤原 (京都) ⑨1名 (京都) ⑩西原・山本・田口他1名 (滋賀) ⑪高井・岡本・出口 (京都) ⑫長島・小橋(滋賀) ⑬安藤・能勢・金城 (京都) ⑭山口・松岡 ⑮石井 ⑯大田・中西・小早川・松浦・山本	2月13日 14日 15日 16日 17日	7 24 45	2 7 13	7 24 45	ろうあ者と違い、難聴者は難聴を隠す方があるため、分かりにくい。昼間は働きに出ているので、夜とか土曜、日曜に訪問するのがよい。身障者手帳を所持しない高齢難聴者が多い。地震のショックで難聴が進んでいる。補聴器を失って困っている。手話活動がなされていた。補聴器に対する手当てに期待される。
中央区	(奈良) ⑦上田他8名 ⑧吉野他7名	2月15日	38	16	37	湊小学校と灘中学校には難聴者学級があり、聴覚障害者対策は万全の対策で、今は不自由ないとのこと。ビラは喜ばれた。
垂水区	(兵庫) ⑦吉江 ⑧岡本・小川 (兵庫) ⑨吉江 ⑩中居・末広	2月15日 17日	14	1	14	他と比較して被害が軽い。相談件数なし。
西宮市	(兵庫) ⑦藤田・塚本 ⑧川口 (兵庫) ⑨池田・渡辺 ⑩三浦・中橋 (兵庫) ⑪渡辺 ⑫三浦・中橋 (兵庫) ⑬渡辺・藤田・三木 ⑭中村・赤城 (兵庫) ⑮渡辺 ⑯中西	2月12日 13日 14日 15日 16日	64 33	25	57	相談件数は少ない。電池の給付が大変好評で喜ばれる。
宝塚市	(兵庫) ⑦大上・徳永・藤本・高橋 ⑧小川・山田・池・中下・河村	2月15日	34	12	35	震災による補聴器の紛失、破損の相談3件あり。
芦屋市	(大阪) ⑦新谷他2名 ⑧3名	2月12日	38	9	36	ろうあ者3名(阪神ろうあハウスで対応)。避難所生活の中で昼間は働き出てる。
川西市	(兵庫) ⑦西岡 ⑧茶木・林 (兵庫) ⑨西岡 ⑩茶木・林	2月13日 14日	11			
伊丹市	(兵庫) ⑦石田・北山・北村 ⑧屋島・岸本 ⑨青木・安積・大森・藤本・堀内・原	2月17日	44			
尼崎市	(兵庫) ⑦加藤 (兵庫) ⑧加藤 (兵庫) ⑨大田 ⑩大田氏姪父 (兵庫) ⑪大田 ⑫大田氏姪父 (兵庫) ⑬庄司 ⑭末永・山田・阿部他1名	2月11日 13日 14日 15日 16日	83			
明石市	(兵庫) ⑩木本他5名		19			
淡路	(兵庫) ⑦坂川 ⑧仲井	2月14日	30			
合計	行動人員⑦64名⑧129名		708	149	469	

(2)-4. 第3次支援行動の対応について

現地対策本部

1995年2月21日

第1次、第2次支援行動の実績を踏まえて、第3次行動をどう展開するかについて協議したい。

単に避難所を巡回し被災難聴者の声を聞いて対応援助するだけでよいのか、災害後すでに約1か月余を経過し、避難所生活する被災者も順次仮設住宅に転居したりして徐々に少なくなり地域によっては避難所の統合も行なわれようとしている。そうした状況の中で被災難聴者は今、何を必要とし、どの様な支援を求めているのかをキチッと見極めて対応する必要がある。

そこで現在までに寄せられた現地対策本部への問い合わせ要望内容とか巡回された方の意見感想の主なものを列挙すると次の通りである。

1. 補聴器の紛失、故障等に対する無料給付修理要望

特に高齢の難聴者で身体障害者手帳を所持しない人が多いので、補聴器を無料給付されても調整が必要である。その場合、遠い補聴器店まで行って調整していただくことが大層である。なんとか現場に調整できる技術者が派遣できないか。

2. 避難所生活を世話するリーダーに、難聴者問題が理解されていないケースが多い。又、難聴者自身も訴えないのでその存在が無視されている。

3. 避難所は昼間は働きに行っているので訪問は土曜日、日曜日がよい。その他色々后感想意見がありましたが、大体は上記の項目と類似したものである。

そこで今後こうした内容を踏まえて支援活動を展開するのか。

1. 補聴器問題の処理

(1)兵庫県リハビリセンターと当本部との連絡によって医療巡回支援チーム（補聴器調整技能をもつ言語療法士も含めたチーム）が被災地にて直接避難者の要望に応えられることを承知した。

県内被災地の要所に拠点をおいて、しかも一定の補聴器も備えて活動される体制ですので対策本部はこのチームとの連携を図り申し出のあった一定の地域へ派遣要請し被災地難聴者の要望に応えるようにする。

(2)第2次行動で補聴器関係は貼紙等を行ない周知されてきていると思うが、上記内容を含めて難聴者が避難している所に再度実施する。

2. 難聴者問題の理解開発

上記行動の中で対応する。特にリーダー宛の依頼状を作成し、持参手渡しする方法

を検討する。

3. 休日訪問の計画

できる限りその方向で行動計画を策定する。

4. 街頭募金活動の実施

被災者の復興には資金の確保がなされなければならない。そのことで頭が一杯である。僅かな義援金であっても被災者にとっては貴重なものである。

全難聴も全要研でもいち早く、募金活動を展開し一定の成果を収められたが、今後は大衆に訴えて強力な街頭募金活動を展開すれば自ら道は拓けると思う。奈良県協会がすでに実施され成果を収められている。是非第3次行動計画の中で検討したい。

【参考資料】

阪神大震災避難所 巡回リハビリチーム一覧表

地 域	チ ー ム	担 当	連 絡 先	備 考
淡路全島	県立淡路病院 リハビリテーション部	立田PT 大宿PT	TEL 0799(22)1200 FAX 0799(24)5704	応急の対応処置 後日、補聴器センター
神戸市灘区 以 西	県立総合 リハビリテーション部	大窪ST 神沢PT (他2名)	TEL 078(927)2727 FAX 078(925)9203	聴覚言語療法士(ST) が同行。補聴器については フィッティングは可能
神戸市東灘区 以 東	兵庫医科大学 リハビリテーション部	小室PT	TEL 0798(45)6111 FAX 0799(24)5704	応急の対応処置 後日、補聴器センター
宝塚／西宮 の一部	宝塚保健所 医療巡回班		TEL 0797(72)0054	応急の対応処置 後日、補聴器センター
伊丹・川西	関西労災病院 医療巡回班	住田医師 勝山医師	TEL 06(416)1221	後日、補聴器センター

【参考資料】

神戸ヒヤリングセンター
宮永社長様

平成7年2月22日

宝塚市安倉西2-1-1
宝塚市総合福祉センター団体事務室内
阪神大震災兵庫県難聴者支援対策本部
本部長 大上 清

この度の大地震で被災した難聴者等に対する補聴器については、格別のご高配をいただき本当に心より感謝申し上げます。

特に全国の補聴器メーカー協議会及び販売店協会のご配慮により、多くの難聴者に大変喜んで戴いております。

私達の支援活動もご配慮戴いております補聴器の問題を中心に各避難所を巡回し、直接耳の不自由な方達の声を聞いて対処しております。そうした中で要望として出てきました内容は別紙に記載しているとおります。又、それに対応する今後の支援行動も、その内容を踏まえ別紙の様な計画を進めたいと思います。

しかしながら、この計画を進めるためには補聴器を調整する能力のある方の協力なくしては実施できませんし、又、先日来よりFAX電話でお伺いし、ご承諾下さいました巡回される方に一定数の補聴器を渡し臨機に対応戴くこと等が基本になります。

そこで対策本部として関係機関に相談しました結果、別紙の通りの状況が把握され、しかもご協力戴ける方向で協議を進めております。

幸い、巡回医療チームの方が公務員でリハビリ関係の担当の方ですので、STは人員的にかぎられていますが応急の対応を頂き、後日、機会を見て最寄りの補聴器センターを訪ねて再調整を頂く方法をとってはどうかと考えております。

以上の様な対応ですすめたいと思いますので、ご協力をお願いします。

この場合、各巡回チーム班に事前にお渡し戴く補聴器センターはどここの店を訪ねていけばよいのか、宮永社長様のご指示を頂きたいと思ひます。

なお、単に補聴器を調整して渡すだけでなく、お渡しする場合は罹災証明の提示と写しのコピー位は引き換えにして戴くとかが必要なこともあると思ひます。

実施に当たっては、宮永社長様のご助言ご指導をお願いしたく思ひます。

以上取り急ぎFAXでお願いいたしましたが、関係者と協議の必要がありますので恐れ入りますが早急にご返事をFAXでお願いします。

以上

【参考資料】

平成7年2月22日

県立総合リハビリセンター
ST 大窪 むつみ様

宝塚市安倉西2-1-1
宝塚市総合福祉センター団体事務室内
阪神大震災兵庫県難聴者支援対策本部
本部長 大上 清

この度の大地震で被災した難聴者等に対する補聴器問題については格別のご高配をいただき本当に心より感謝申し上げます。

私達も、ささやかな耳の不自由な障害者団体ですが、地震以来対策本部を設置して被災難聴者の支援活動に取り組んでおります。支援活動も難聴者にとって一番大切な補聴器等の問題を中心に各避難所を巡回し、直接耳の不自由な方達の声を聞いて対処しております。

そうした中で要望として出てきました内容は別紙に記載しているとおりです。又、それに対応する今後の支援行動も、その内容を踏まえ別紙の様な計画で進めたいと思います。

しかしながら、この計画を進めるためには補聴器を調整する能力のある方の協力なくしては実施できませんし、又、先日来より補聴器店業界の代表の方と協議してご承諾戴いております巡回される方に、一定数の補聴器を渡し臨機に対応戴くこと等が基本になります。

その為に昨日来より再々電話等でご無理なお願いをしております通り、この計画の過程で医療チーム班の巡回計画のあることを聞きました。又、大窪様からのご助言で他の医療チームの方達（別紙の通り）にも連絡をとり、協力をお願いしました。

しかし、大窪様のチームはともかくとして他はSTの方がおられないと言うことで調整までの支援には若干問題もあるかと考えて、今回は応急的に対応した後日専門の補聴器センター等で再調整と言う対応でどうかと、私共の方より提案しているような次第です。

以上の様な対応で進めたいと思いますので何卒ご協力をお願いします。この場合、各巡回チーム班に事前にお渡し戴く補聴器センターはどこの店を訪ねていけばよいのか、兵庫の業界代表の神戸ヒヤリングセンターの宮永社長様のご指示を頂くように、目下連絡しております。

なお巡回して戴く場合とか、被災者で対策本部に補聴器を要請され現地入りして補聴器の相談を戴く場合、単に補聴器を調整して渡すだけでなく、お渡しする場合は罹災証明の提示とか写しのコピー位は引き換えにして戴くとか、必要な措置は宮永社長にお伺いしています。

なお、その他、実施に当たっては具体的な問題もありますので、事前にはご相談もさせて頂きます。又、大窪様の助言御指導をお願いしたく思っています。

以上取り急ぎFAXでお願いしましたが、関係者と協議の必要がありますので恐れ入りますがお気付きの点がございましたら早急にご返事をFAXでお願いします。

以上

第3次支援行動の実施報告の概要

全難聴地震現地対策本部

H7.3.10作成

実施地域	担当協会（担当者）	行動日	巡回 避難所数	補聴器巡回希望者状況 避難場所（人数）	巡回行動の状況					備 考
					ST	補聴器店	対策本部扱い	その他	合計	
兵庫区	（兵庫）㊦小川・植田	2月28日	6	御崎幼稚園 2				2	2	医師受診すすめる
	（兵庫）㊦田中・岩脇 西田	3月3日	7	会下山本法寺校 3 市立神港高校 1	2	1 1			3 1	吉田勝恵商店扱い
長田区	（大阪）㊦上野も・上野王 新田下・小川	3月3日	18	神戸協同病院 1 二葉小中学校 2 三池小中学校 2 運兵倉小中学校 3 西瀬小中学校 1 電話 2	1 1 1 1 1	1 2 2 3 1 1			1 2 2 3 1 2	大窪ST他 大窪ST他 大窪ST他
	（大阪）㊦長沼・流郷 仏武村									
須磨区	（岡山）㊦野藤村 （兵庫）㊦中居	3月2日	7	天理教会小 1 西須磨小（老人ホーム） 2 コスモス 1		1 2 1			1 2 1	大窪ST
中央区	（奈良）㊦上田他1名 ㊦3名	3月4日	7	下山寺小学校 1 神戸文化ホール 1		1 1			1 1	市役所で書類を作り補聴器店で入手
東灘区	（滋賀）㊦坂本・原城 ㊦安藤・金田・田崎 ㊦神山中千代	3月2日 3日	23	住吉老人公一ム 住北江集会所 青木都計学館 吉之木小中学校 生野南中学校 友山第三小学 本山三小 神赤電 電話 依頼	1 1 1 2 2 2 1 2 1 2 1 2	1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			1 1 1 2 2 2 1 2 1 2 1 2	岸田ST 岸田ST 電池送付済 岸田ST 岸田ST 岸田ST 電池が本部にないので神戸補聴器店で調達 修理についての相談
	（京都）㊦山口・西原 ㊦小池・長島	3月2 ～4日	4	西灘小学校 1 電話 依頼 2	1 1	1 1			1 2	大窪ST他
垂水区	（兵庫）㊦中村・中居	3月2日	11							補聴器巡回を必要とする避難所の難聴者はいない。ビラを貼る。
淡路	（兵庫）㊦坂川他1名 ㊦山下・田中・岩見	2月26日 3月4日	4 18	五色町役場 1 電話による依頼 3		1	3		1 3	補聴器は本部より送付。補聴器店で調達 北淡町役場へ補聴器を送付
芦屋市	（大阪）㊦1名	3月5日	3	精道中学校 1 海技高等学校 3	3	1			1 3	耳栓取替 岸田ST他
西宮市	（兵庫）㊦池田他3名	2月25日								
川西市	（兵庫）㊦西岡 ㊦中村	3月11日								難聴者は5人だが補聴器支援の必要はない
明石市	（兵庫）㊦中嶋 ㊦1名	2月	18							補聴器を必要とする難聴者はいない
尼崎市	（兵庫）㊦加藤 ㊦1名	3月11日	3	電話による依頼 1			1		1	巡回を必要とする避難所の難聴者なしビラ配布。ビラを見て本部に來訪、補聴器を貸与
宝塚市	（兵庫）㊦小川・川村 中下	3月3日 6日	4 6	電話による依頼 1			1		1	ビラを見て本部に來訪、補聴器を貸与
合 計	行動人員 ㊦22名 ㊦42名		139	56	15	32	5	4	56	